

2011夏、留学説明会報告

2011年7月2日の東京理科大学から始まり、北海道大学、東京工業大学、東京大学、九州大学の5大学で留学説明会を行いました。総勢800名近くの方々に参加して頂き大盛況に終わりました。また、船井情報科学振興財団とアメリカ大使館の後援を頂き、御礼申し上げます。会場ごとに講演内容も違い、バラエティに富んだ留学説明会になりました。

東京理科大学（7月2日）

留学説明会を東京理科大学で初めて開催いたしました。両キャンパス（神楽坂と野田キャンパス）を併せて、約170人が参加しました。講演者とパネリストには、理科大在校生・卒業生に参加して頂き、ジェンダーバランスに偏りなく、様々な留学プログラムを（交換、修士、博士、文系、理系）紹介することが出来ました。アメリカ留学には多くのプログラムがあり、様々なプログラムを紹介できたバランスのよい留学説明会でした。また、留学のメリット・デメリットに関する貴重なお話もありました。神楽坂キャンパスでは、時間の都合で打ち切らねばならないほどに多くの質問がありました。ご協力していただいた先生方に深く感謝致します。（大倉）

北海道大学（7月5日）

初めての北海道大学で開催された留学説明会には、約80人が参加しました。北海道大学国際本部との共催のもと、部屋の定員60人を超えて熱気あふれる留学説明会となりました。講演者には、理系の博士課程の方に参加して頂き、個人体験あふれる中身の濃い内容となりました。学生のモチベーションが非常に高く、多くの質問が挙がり、懇親会にも20名以上の方々に参加して頂き大変盛況でした。残念ながら北大卒業生による講演が実現出来ませんでした。この留学説明会を通じて、今後北大生による留学と講演の循環の輪が形成されることを期待しています。ご協力していただいた職員に深く感謝致します。（大倉）

目次

留学説明会報告	1 2
寄稿『米国大学院を目指す皆さんへ』 倉林 活夫	3
寄稿 留学体験記 大倉 有麻	4 5
『F-1ビザ、J-1ビザでの 入国の注意』 丹 恵	6
わが街紹介 フィラデルフィア 青木 玲奈	7
お薦め本 『世界級キャリアのつくり方』 『グローバルキャリア』 西野 麻理	8



北海道大学会場
講演の様子



北海道大学会場
講演

東京工業大学（7月9日）

2010年5月に続いて東工大では2回目の説明会になります。今回は「学位留学後のキャリア」のイメージを参加者に持ってもらえるような企画にしました。講演者・パネリストとして、留学後に大学の教員になった方、メーカーに就職した方、ベンチャーを起業した方をお招きして、自分たちが何を考えて留学を実現し、そしてその経験がいまの仕事にどう活かしているかという話をして頂きました。留学後の進路は多様でも、結局、留学とは就職活動のためではなく、自らの人生を豊かにするための選択肢なのだ、という価値観は登壇者に共通していたようです。100人近くの学生が熱心に聞いてくれて、事後アンケートでも「キャリア形成は多様だとわかった」「夢を熱く語っていて、カッコイイと思える方々の話を聞いて良かった」と肯定的な意見が多くありました。（坂本）



東京大学会場 Q&Aセッション
上：理系パネリスト
下：文系パネリスト

東京大学（7月30日）

約350名の方に参加頂き大盛況で終わることができました。アメリカだけでなく、イギリス・フランス・スイスなどヨーロッパの国へ留学を経験している人が計15名ほど集結し、また初の試みとして文系・理系に分かれてのQ&Aセッションを行いました。留学時期に関しても、学部から留学している人・学部卒・修士取得後に留学した人などバリエーションをもたせることができ、様々な選択肢があることをお伝えできたと思います。その後の懇親会にも非常に多くの方が参加され、本格的に海外の大学院への留学を考えている方が増えているような印象を受けました。（原）

九州大学（8月1日）

九州大学留学生課のご尽力の元、2つのキャンパスの間にシャトルバスを用意していただくなど全学的なサポートの中、100名ほどの方に参加して頂きました。福岡アメリカ大使館の職員2名もパネリストに加わっていただき、活気のあるQ&Aセッションを行うことができました。講演者・パネリストは文系と理系、アメリカとヨーロッパに分かれており、具体的な出願プロセスから留学全般に関わる治安や外国での暮らしに関してなど幅広く質問を頂きました。テスト前にも関わらず、懇親会まで参加してくれた人も多く本当にありがとうございました。（原）



九州大学会場
Q&Aセッション

皆さんがこの米国大学院生会・ニュースレターをご覧になっているということは、現在アメリカの大学院で勉学や研究に日々奮闘しておられるか、または現在日本の大学で学び、将来アメリカの大学院への進学を考えておられるということだと思います。今回は後者の方々に向けて、私の思うことをメッセージとして送りたいと思います。

<日本という枠を飛び出す>

人生はいつの段階にあっても、私たちに重要な選択を迫ってきます。皆さんにとって、日本の大学・大学院を出て、日本の企業、大学または研究所に就職するという従来の道を進むか、日本という枠を飛び出し、世界を目指してアメリカを含む海外の大学院で教育を受けるという道を進むかという選択もまた、人生の大きな決断事であるでしょう。それはちょうど私が20年ほど前に日本で大学生であった時、突きつけられた選択肢でした。

当時の私は、いわゆる日本経済がバブル景気最高潮の真っ只中であって、日本企業がこぞって学生たちに豪華な食事や旅行などを提供し、青田買いをするといった時代にありました。工学部の学生ならば、普通に大学で単位さえ取っていれば、企業からの就職の誘いは引く手あまた。現在、就職活動で苦勞されている皆さんの世代から見れば、想像だにないような時代でした。そうした環境の下、自分自身の甘えもあり、今思えば、大学での勉強はかなりいい加減なものだったように思います。しかしそのような中、私は非常に大きなむなしさを感じていました。そもそも自分はなぜ理系の道に進んだのかと、。



Prof. 倉林 活夫

ミシガン大学工学部攻
准教授。スタンフォード
大学博士号取得。米
国大学院学生会顧問。

<自分自身の願望と価値観を基準に>

私が理系に進むきっかけは、中学生のとき、父の書棚にあったフランスの数学者、アンリ・ポアンカレの「科学と仮説」(岩波文庫)や、アメリカの物理学者リチャード・ファインマンの「物理学法則はいかにして発見されたか」(岩波現代文庫)を背伸びして読んだことでした。そうした書物の中には、第一線の研究者が、多くの苦勞を経て、ひらめきと新たな発想で科学上の新しい発見をしていったプロセスが生き生きと書かれてあったのです。細かい技術的なことなど良く分かりませんでしたが、そのことに感動し、自分もいつかそうした世の中に役に立つ新しい発見や発明をしてみたい、と強く願うようになりました。

ところが残念なことに、その願いとは裏腹に、日本で大学生であった私は、そうした胸躍る第一線の勉強や研究とは無縁の、表面では楽しそうでも、心の中では悶々とした生活を送っていたのです。そうした頃、たまたまNHKの番組で、アメリカの大学院を特集した番組を見ました。そこでは、カリフォルニア大学サンディエゴ校の生命科学分野の博士課程で学ぶアメリカの若者たちの姿が映されていました。燦々と降り注ぐカリフォルニアの太陽の下で、教授と生き生きと研究上の議論をする学生たち。分野こそ違いますが、教師と生徒という身分にかかわらず、徹底した議論でアイデアをぶつけていく学生たちの姿が、まぶしくみえたのです。これだ!と思いました。そのとき自分はアメリカの大学院で研究がしたいと思ったのです。自分もあのようなところでチャレンジしてみたいと思い、さっそく大学4年の春に、TOEFLとGREの参考書を買って、アメリカ大学院留学に向けて勉強を始めました。

今でこそ、日本の若者は内向きだなどと言われていますが、私が学生であった当時さえ、日本経済は絶好調、アメリカ経済は80年代後半から続く長い不況で、アメリカの大学院進学などを考える日本の大学の級友などだだの一人もいませんでした。大学の先生に相談したところ、今や日本の工学は世界最高、どうしてわざわざアメリカなどにそれを学びに留学するのと言われてしまいました。そこで自分は変わった学生だと思われていたようです。しかし、それでも自分の願いがはっきりした以上、それに邁進することにしました。結果的に、運よく念願のカリフォルニアにあるスタンフォード大学材料科学部大学院に合格することができたのです。そこでPh.D.を取り、その後アメリカの大学で教鞭を執る傍ら研究室を主宰するという幸運にも恵まれました。

私はアメリカの大学教師になった今でも、日々難しいチャレンジがあり、難しい選択に迫られています。少年のときに願った、世の中に役に立つ発見や発明をしたいという希望は自分の研究でかなったのでしょうか? 実はその答えを見つけるための奮闘は、今でも続いています。しかし、人生のちょっとした先輩として皆さんに言えることは、迷ったときには、皆さんの原点である願望や価値観に戻り、それを軸にして物事を決めたらよいということです。人生の選択をする際は、周りの友達やご家族の意見を聞くことは大切です。しかし最後は、自分が人生で何をしたいのか、価値観は何なのかということを決めるのを今のうちにと決めて、それに従って決断してください。そうすれば、皆さんの持つ最大限の能力を、人生で発揮することができるでしょう。アメリカの大学院では、世界中からやる気のある優秀な学生が集まり、日々活発に勉学・研究をしています。そこでの経験は、これからの皆さんの人生に大きな糧となることを信じています。

<Californication>

「カリフォルニケーション」と聞いて皆さんは、何を思い浮かべるでしょうか？ Red Hot Chili Peppersの歌、連続ドラマ、カリフォルニア化など、いろいろな事を思い浮かべるでしょう。単語の由来は、二つの単語CaliforniaとFornicate（姦淫する）を合わせた造語で、実はちょっとエッチな意味を含むのです。ここまで読んで、僕がこの先話す留学話の展開が想像できましたか？（笑）

僕の名前は、大倉有麻（ゆうま）。スタンフォード大学院の機械工学科D3に所属します。特技は勘違いで、自然が大好きです。外で遊ぶと我を忘れて夢中になります。僕にとってカリフォルニケーションとは、カリフォルニアでしか出来ないことを全力で楽しむことです！これが僕の二番目の留学目的かもしれません※。この地ならではの、温かい気候、晴天の青空、綺麗な海とビーチ、そして、能天気な人々。これら全部を全力で楽しむ！そのことについて、紹介したいと思います。

※ 一番の理由は、質の高い教育を受けることです。

<北カリフォルニアのライフスタイル>

カリフォルニア（CA）は大きく分けて、北CAと南CAに別れており、皆さんがテレビを見て想像するカリフォルニアとは、南CAのことです。残念ながらスタンフォードは北CAに属するので、予想に反して海は冷たく、冬には雨が降り、一年中楽園というわけではありません。夏の間でも海パンでは泳げないほど水は冷たく、夏以外は長袖や上着が必要です。ちなみに、僕は留学前までこのことを全く知りませんでした。スタンフォードに行けば、ビーチと楽園が僕を待っていると大きな勘違いをしていました。そして、現地に着いてびっくりした思い出があります。

しかし、そんな北CAでも、夏は楽園のように青い空、眩しい太陽、湿気のない温暖な気候、日光浴中のビキニ美女（上裸のマッチョ男性も）が大学内で楽しめます。そして、僕はこの夏の晴天を利用してPrivate Pilot license（小型飛行機運転免許）の取得をすることに夢中です。Research Assistantで頂く給料の貯金を全額投入しての一生で一度（？）の巨額な趣味投資（100万円前後）です。日本では、免許取得は経済的に困難なことでも、ここアメリカで博士課程をやっているからこそ、やる気次第で出来ることの一つだと思います。スタンフォード周辺は、物価が高く金持ちも多いので、小さな空港に自家用飛行機やチャーター機などが多いのが特徴です。僕は安く免許を取得するため、機体はBellanca Citabriaで、一番古い1979年ものです。僕よりも年寄り（1985年生まれ）ですが、それでも現役で1時間のレンタルで\$100強かかります。操縦席は非常にうるさいが、とてもアナログでレトロな感じでなかなか味があります。エンジンが停止しても、空中で機体が分解しない限りゆっくりとどこかに不時着すればいい。そんな言い訳を胸に言い聞かせながら飛んでいます。

続いては、僕の趣味「ビール造り」について紹介します。ここカリフォルニアでは、商売目的でなければ、ビールやワインの自家醸造が合法です（州によっては非合法）。これもアメリカならではの趣味でないでしょうか。そのため気軽に楽しく始められるのが、最大の特徴です。一番簡単な作り方は、ビールキットを購入する方法です。はじめに、大きな樽の中にビールの原材料、ビール酵母とそのエサ（砂糖）をたっぷり入れて1週間醗酵させてアルコールを作ります。その後、密封するため小さなビンに移し、またエサ（砂糖）をあげると、約3週間で酵母たちが二酸化炭素を作ります。これで完成！完成したビールは、缶ビールのようにシュワシュワするので驚きです。僕はビール造り



大倉 有麻

名古屋大学工学部機械航空工学科卒、Stanford University, Mechanical Engineering 博士課程在籍中



スタンフォード大学は北カリフォルニアに属する



小型飛行機運転免許取得に向けて研究の合間に練習中



仮装しながら、人生初のビールかけに大満足！

を始めるまで、二酸化炭素を高圧でビールの中に溶かして、シュワシュワさせるものと勘違いをしていました。自作ビールの味は友達からの賛否両論ありますが、自分が作っただけに自分の偏見では美味しいです。しかし、問題もあります。それは、一度に23リットルも作るのです。とても一人では飲めないので、初めて作ったビールは味わうだけでなく、人生初のビールかけにも使ってみました。

ここまでの内容を見ると、楽しいことばかりのように思えますがもちろんマイナス面もあります。一番大きな問題は、ものすごく高い医療費です。日本の保険制度がいかに充実しているかを実感いたします。本当に日本の保険制度は素晴らしいです！現在のスタンフォード大学学生の年間保険料は\$3,384（27万円前後）です。そして、これは歯科の保険料を含みません。ちなみに、アメリカで捻挫の治療（X線写真、週1のリハビリ）を保険なしで行う場合は10万円前後かかります。大きな治療を行う時は、日本への往復航空券を購入して、日本で治療を受けたほうが、安上がりな場合もあります。高い医療費を避けて、健康な生活を送るためにカリフォルニアでは健康に気を使う方が多いです。スポーツやサプリメントで体調を整え、オーガニック食品だけを選んで食べる方もいます。アメリカ人はファーストフードと炭酸飲料をガブガブと口にするため、健康に関心の無い方ばかりが目立ちますが、実際は健康にとっても気を使う方も多く、二極化が進んでいる印象を受けます。健康に自信の無い方は、よい保険に加入しない限りは長期留学（1年以上）はお勧めしません。



研究室でスキー旅行。左から、米国、中国、日本、インド

<自分の道を見出す>

スタンフォードには、とても多くの人種が集まります。まさに「人種のるつぼ」で、例えばルームメイトはチリ出身です。研究室には、アメリカはもちろん、中国、韓国、インドのように世界中から学生が集まります。アメリカと他国のアイデンティティが混じり合って生活・思考が構築されています。そのため「皆と一緒に振舞う」ということが不可能です。むしろ皆と違っていることが人として重要であり、面白いと評価されます。その影響で自分のやりたいことはなんだろうかと、周りの目（世間体）を気にせず素直に考えることが容易です。もちろんそれは利点でもありますが、欠点でもあります。やりたいことが見つからない人にとって、回りがやっているからとりあえず合わせても評価されず、自分が苦しみます。だからこそ、自分のやりたいことを真剣に考える機会が増えます。これが留学をして得た、僕の小さくても大きな変化です。



山あり谷あり！自分のやりたいことを見つけるのは難しい

僕は「留学して何か変わりましたか？」という質問を留学説明会で受けます。質問者は、人生観の変化を期待していると予想しますが、残念ながら人生感という大きく抽象的な概念を持つと頭がパンクするので、僕は人生観が無いですし、欲しくもありません。今、僕が欲しいものは実験結果のみです！（苦笑）僕は、数十年先の人生目標を建てたところで、方向音痴なので迷います。遠い将来を考えるより、3~4年後に自分がやりたいことを見つけるため、全力でいろんなこと挑戦しています。アメリカ留学はやる気があれば、未経験な領域（研究、趣味、スポーツなど）に挑戦しやすい環境です。文化や言語という壁はありますが、その壁を乗り越える苦労をさえ惜しまなければ、自己表現を思う存分出来ます。留学とは、飛行機で10時間ぐらい飛んだ先の学校で勉強することです。長期の海外旅行に、勉強が一緒に付いてくるバック旅行です。勉強すると同時に、旅行気分で見地を楽しみ（カリフォルニアケーション）、その留学中に「自分のやりたいことは何かな？」とビールを片手にゆるりと考えてみるのもなかなか良いですよ。

大倉有麻 <http://sixpackdreamer.blogspot.com/>

8月になると9月の新学期ため生徒が続々とアメリカに入国します。ニューヨーク大学では新入生の数はだいたい2千人以上。その新入生を集めて留学生の移民法を守るために必要なことの説明と新入生がきちんと入国できたかどうか確認するのが私達、留学生アドバイザーの大きな役目のひとつです。特に学生として始めて入国する場合は、緊張もあってか、つまらないミスから間違っして入国してしまう生徒が何人かいます。今回は学生ビザで入国することに関する注意点について書きます。

<アメリカにF-1ビザ、J-1ビザで入国する場合の3つの注意点>

1. 必要書類を手荷物に入れる

必要書類は基本的には2つです。F-1またはJ-1の発行されたビザスタンプの押されている、最低でも6ヶ月以降まで有効なパスポートと大学から発行されたI-20またはDS-2019。それらの書類には必ず、生徒がサインする場所にすでにサインをしてあることを確認してください。また、アメリカ国土防衛省（DHS）では財務証明書、SEVIS手数料の領収書、再入国の場合は成績証明書を補足書類として携行することを勧めています。入国審査は預けた荷物を受け取る前に行われるので、これらの書類は全て、手荷物の中に入れることを忘れないでください。間違っしてスーツケースにしまっして、入国審査官に書類をみせることができ無場合、審査に時間がかかり、乗り換えの飛行機に間に合わなかつたり、場合によっては入国を拒否されることもあります。

2. 入国審査の手順を知る

入国審査では、アメリカ市民と永住権保持者とビザを持って入国する人の列が別れています。正しい列に並び、順番が来たら、飛行機の中で渡された、税関申告書とI-94と呼ばれる出入国カードと、パスポートと大学から発行されたI-20、またはDS-2019を 入国審査官に提出します。入国の理由を聞かれますから、勉強しに来たこと、大学名や専攻を答えて下さい。審査官は違法に入国する人を排除するのが仕事ですから、最初から、よからぬ理由でアメリカに入国しようとしているんじゃないかという視点で私たちをみえています。優しく、ほがらかにアメリカへの入国を歓迎します！という態度の入国審査官も稀にいますが、どちらかというところ尋問を受けている気分になります。ここで大学の住所や滞在地の住所を聞かれるたり、なぜその分野の勉強しているのかと聞かれることもあります。

審査が合格だった場合、審査官は I-20 またはDS-2019と I-94へスタンプを押し、手書きでビザのカテゴリー（F-1またはJ-1）とアメリカ国内に滞在できる期間のD/Sと書き入れます。D/SはDuration of Statusという意味で、I-20またはDS-2019の期限以内でフルタイムの学生である限り、滞在を許可するということです。ここが手書きなので間違いがおこりがちです。必ず自分のビザのカテゴリーが書かれていること、D/Sと記入されていることをその場を立ち去る前に確認してください。特に扶養家族と入国する場合、間違っして学生の方にF-2と書かれていること、まったく何も書かれていないこと、滞在期間がD/Sではなく、何かの日が書かれていること、他のビザを以前持っていたため以前のビザカテゴリーが書かれていることなど全て間違いです。入国カードが間違っして記入されている場合、学生は誤っして入国していることとなります。その入国記録を直せるのは入国審査官だけです。間違えて記入されている入国カードを発行された場合は大学の留学生オフィスに届け出てください。通常、学生本人が必要書類を全部持っして、その入国審査をうけた国際空港のDeferred Inspection というところで再審査をうけて、入国カードをなおしてもらいます。

3. 入国審査で問題があつた場合

第1次の審査の段階で入国審査になんらかの問題があつた場合、または生徒が必要書類を全て持っていない場合、第2次審査の場所に行くよう誘導されます。ここへ連れてこられたら、ちょっと長丁場になります。でも落ち着いて、名前を呼ばれるまで待つてください。第二次審査官はI-20またはDS-2019を発行するのに使われた、SEVISを使って、身分の確認を取ります。もし携行していたら財務証明書、SEVIS手数料の領収書、再入国の場合は成績証明書を補足書類として提出してください。各自の大学、交換プログラムの留学生アドバイザーの名前と連絡を知っているといいでしょう。書類不備などの場合は大抵、アメリカへの一時入国を許可する、I-515Aを発行されて入国できます。I-515Aを発行された場合は入国後、直ちに留学生オフィスに届け出てください。留学生アドバイザーは生徒がちゃんと到着を報告したことを確認した後、入国のときに持ってなかつた書類をつくってくれます。I-515Aの用紙と、一時入国を許可された入国カード、I-20またはDS-2019などの書類を指定のアメリカ国土防衛省（DHS）に提出します。7月15日より、このI-515Aの書類の提出が期限内（入国してから30日以内）に届かないと、DHSのほうで自動的に学生のSEVISステータスを無効にするという報告がありました。必ずそれまでに届くように、そして郵送したという記録を残すためにも、普通郵便ではなく、エクスプレスマールを利用してください。

このように、つまらないミスから間違っして入国してしまわないように気をつけてください。これから入国される方の参考になれば幸いです。よい新学期をお迎えください。

資料： Immigration and Custom Enforcement
F-1学生の入国について
J-1学生の入国について

<http://www.ice.gov/sevis/students/#>
http://www.ice.gov/doclib/sevis/pdf/japanese_student.pdf
http://www.ice.gov/doclib/sevis/pdf/japanese_ev.pdf

フィラデルフィアは、ペンシルバニア州の南東部に位置する東海岸有数の都市です。17世紀にヨーロッパ人の入植によって始まり、その後アメリカ独立宣言の舞台になった地でもあり、アメリカの歴史においても重要な位置づけを持つ都市です。今回は、フィラデルフィアの文化や生活について紹介させていただきます。

<歴史の街フィラデルフィア>

フィラデルフィアは、アメリカにおいて最も長い歴史を持つ都市のひとつです。1682年にクウェーカー教徒のウィリアム・ペンらがデラウェア川に沿って居住区を作ったのが、フィラデルフィアの始まりといわれています。その後、フィラデルフィアの街は急速に発展し、1754年までには当時のアメリカ最大の都市になりました。アメリカ独立戦争では、特に重要な役割を果たしました。1774年9月に、植民地代表者による会議（大陸会議）が行われ、フィラデルフィアが独立戦争における植民地側の指導機関の本拠地となりました。また、独立宣言採択やアメリカ合衆国憲法制定会議も、フィラデルフィアで行われました。1790年から10年間、フィラデルフィアはワシントンに首都が移されるまでアメリカの首都にもなりました。

このように、フィラデルフィアはアメリカの歴史を語る上で欠かせない地として、今現在も重要な観光スポットになっています。街中には、近代的な建物に混じって当時の建物が多く残されており、多くの観光客が訪れます。バスや馬車に乗って街中をまわるツアーも人気があります。

<フィラデルフィアでの食事や買い物>

フィラデルフィア名物の一つに、「チーズステーキ」というパンにソテーした肉とチーズを挟んだ食べ物があります。店によって肉の切り方や味付けなどに特徴があり、どこのものが美味しいか食べ比べてみるのも楽しいかもしれません。フィラデルフィアの中心街にあるレディングターミナル・マーケットは歴史のある屋内巨大市場で、生鮮食品から乳製品、魚介類などを買い求めたり、フードコートで様々な料理を楽しんだりすることが出来ます。さらに、このレディングターミナルマーケットのすぐ側にチャイナタウンがあり、中華料理のレストランやスーパーマーケットなどが数多く立ち並びます。特にディムサムと呼ばれる飲茶点心スタイルのレストランでは、安価で多くの種類のメニューを楽しむことが出来るため人気があります。

フィラデルフィアには数多くのレストランがあり、安く食べられる所から高級な有名店まで選択肢があります。アメリカ版「料理の鉄人」に出演している森本正治氏が開店したMORIMOTOというレストランもあり、かなり人気があるようです。また、年に何度かあるRestaurant Weekという期間には、普段は値段が高くてなかなか行くことの出来ないレストランの料理を、比較的安価で楽しむことが出来ます。その時期を狙って、行ってみたいレストランに足を運ぶのもいいかもしれません。人気が高いので、予約するのを忘れずに。このようにレストラン事情の充実したフィラデルフィアですが、残念ながら安価で美味しい日本食を見つけるのはまだ難しいです。

フィラデルフィアで買い物をする時は、日用品のほぼすべてをセンターシティでそろえることが出来ます。有名デパートであるメイシーズがある他、ショッピングモールもあります。郊外に出ると更にいくつかのショッピングモールがあります。

<エンターテイメント>

フィラデルフィアは先に述べたように歴史的観光スポットであり、独立宣言採択や合衆国憲法制定の行われた独立記念館（写真1）、アメリカ独立のシンボルである自由の鐘（写真2）などがあります。多くの映画撮影もフィラデルフィアで行われています。あの有名な「ロッキー」の撮影舞台となったPhiladelphia Museum of Artは、数多くの有名作品を展示するアメリカ有数の美術館です。また、スポーツもさかんで、フィラデルフィア・フィリーズと呼ばれる野球チームを始めとし、バスケットボール、サッカーなどのスポーツ観戦に行き地元チームを応援するのもフィラデルフィアの人々の娯楽のひとつです。さらには、センターシティの西側に走るSchuylkill川沿いにはランニングやバイキングに最適なトレイルがあり、川ではカヌーを楽しむ人も多くいます。

最後に、フィラデルフィアは、ニューヨーク、ワシントンDC、アトランティックシティなどに近く、週末などを利用してこれらの都市に遊びに行くことも可能です。また、ポコノスやデラウェアなどのハイキングスポットも近い位置にあるため、多くの人が天候の良い時期にハイキングに出かけます。このように歴史的にも文化的にも充実したフィラデルフィア、一度訪れてみられてはいかがでしょうか。



写真1

上：独立記念館外観

下：独立記念館内部

イギリス植民地下にあった13州の代表者が集り、1776年7月4日にアメリカ独立宣言が署名された場所。



写真2

自由の鐘（Liberty Bell）
アメリカ独立のシンボル。

ウェブサイト

<http://gakuiryugaku.net/>

【ニュースレター編集部】

小野 雅裕
原 健太郎
平林 正稔
工藤 朗
石原 圭祐
大勝 裕子
大久保 達夫

newsletter@gakuiryugaku.net

執筆者を募集中!

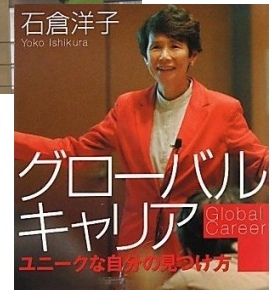
編集部では、留学体験記や各種のコラム(わが街紹介、学科紹介、お薦め本等)を執筆してくれる方を募集しています。

ご興味のある方・お問い合わせ等は、上記編集部までご連絡下さい。

お薦め本

『世界級キャリアの作り方』
黒川清・石倉洋子 著

『グローバルキャリア』
石倉洋子 著 (東洋経済新報社)



今回ご紹介する本は、「世界級キャリア」「グローバルキャリア」の二冊。石倉洋子氏はバージニア大学にてMBA留学の後、ハーバードで博士号を修得された方である。共著者の黒川清氏と共に、国際的に活躍される傍ら教育者として日本の若い世代を情熱的に応援し続けておられる。

さて「グローバル人材」とは昨今の就職活動で使われ過ぎている感のある言葉だが、一体どういう人物なのか。著者は、広い世界での切磋琢磨を経て周囲から評価され得る力を身に付けた「国際派プロフェッショナル」という考え方を提示する。そこへ到達する過程でのエピソードの数々は実際に読んで頂くとして、私自身に響いたメッセージは二点。「個として勝負できるプロフェッショナル」としてのキャリアを、自らの意志と責任を持って「デザイン」すること、その為に「ORをANDにする」意識を常に持つということである。いかに自身の外的特色(出身、学歴、専門等)と内的特色(性格、友人関係、姿勢等)を組み合わせ、自分というユニークな人材を編みだしていくかを考えるのは楽しい作業ではなからうか。

この本には、留学を目指す人にとって、夢を膨らませられる成長のかたちが示されているように思う。そして留学中、世界から集まる同級生の凄さに心が折れそうになった時、自分のユニークさを強みにすることを思い出させてくれるだろう。20-30代およびその先のキャリアを考えるにあたり、是非一読をお勧めする。

(西野麻理, UCSF Ph.D)

編集後記

・米国大学院学生会のFacebookページができました。
<http://www.facebook.com/gakuiryugaku>
こちらのページから「LIKE」「いいね」をクリックして頂くとWallに書き込みできるようになります!

・英語を学ぶのが大変だと思う人も少なくないと思います。むしろ、留学生のほうが英語をもっと頑張らないかと思っている人が多いでしょうか。僕自身、英語の勉強は専攻の勉強以上に力を入れています。日本人並みに日本語をしゃべれるアメリカ友達に勧められたのが、「映画・ドラマ勉強法」。日常会話での表現や会話のスピードなど、普通についていけるまで英語を伸ばしたいものです。(原)

・こちらに来て1年。英語の達成度はいくらかと聞かれると、「まだまだ」でしょうか。特に日常会話。50% Guessという感じです。私の生活の大半は、今でも英

語の勉強に費やされています。英語勉強法として「映画・ドラマ勉強法」はいい方法です。私のお勧めはディズニーチャンネル。20歳後半になってディズニーかよと思われるかもしれませんが、これが結構いい。中でも、Good luck Charlieは好きな番組で、背景で笑いが入る分こちらの人の笑うつぼが分かります。「少しでもみんなと話したい」そんな気持ちで日々勉強しています。(平林)

・新年度を目前に、新入生が続々とキャンパスに到着し様々なオリエンテーション行事に参加している真っ最中です。うちのプログラムでは、新入生は在学中利用できる各種施設のツアーを受ける他、教授らを招いた学科長の家での夕食会や、先輩の家でのバーベキューパーティーで一気にも多くの教授や他の学生達と親しくなれます。自分も一年前はそんな初々しい新入生の一人だったことを思い出しながら、大学院二年目もがんばっていきたいと思います。(石原)